

北海道日本ハムファイターズ 「植樹祭・野球教室」

小中学生が岩本投手・奈良原内野手と交流

昨年(2015年)に続き2回目となる植樹祭には、各小中学校を通じて応募した小学生33名を含め、関係者や町内外からの一般公募者など約60人が参加。開会にあたり池部町長は、「今季パ・リーグのレギュラーシーズンで最後まで粘り強く戦い、堂々の3位に入った日本ハム選手

10月16日、北海道日本ハムファイターズの選手らが、かなやま湖畔の町有林「アオダモの森」で、町内の小学生と一緒に「植樹祭」を行いました。

来町したのは岩本勉投手、奈良原浩内野手、球団ファン・コミュニケーションサービスの土田部長と野々川課長の4名。



小学生とアオダモを植樹する両選手



岩本選手によるピッチング指導

翌17日は、町営湖畔野球場で「野球教室」が開催され、野球少年団や野球部に所属する町内の小中学生48名と、空知川を通じた水源林の植樹交流を行っている

の姿を見て感動しました。道民球団の活躍は、将来プロ選手を目指そうとする子ども達に、大きな夢と希望を与えてくれたと思います。」と挨拶しました。

この後、岩本投手と奈良原浩内野手は、スコップを手に子ども達と一緒にバットの原木となるアオダモ50本のほか、アカエゾマツ、オニグルミなど計90本の苗木を植えました。



奈良原選手による守備指導

滝川市から少年野球倶楽部の小学生17名が招かれ、両選手から指導を受けました。子ども達は、バッテリーと野手に分かれ、岩本投手からはピッチングホームと捕手のキャッチングの指導を、奈良原内野手からは、走塁技術と守備の指導を受けました。

野球教室終了後には、選手らと焼肉を囲んだ交流会とサイン会が行われ、子ども達もプロの選手と接し、感激した様子でした。



野球への思いを語りかける岩本選手



交流会で小学生とうちとける奈良原選手

も達は、プロの選手と接し、感激した様子でした。